

# お宅のブロックベいは大丈夫ですか？

六月の「宮城県沖地震」で、二十八人の痛ましい犠牲者がたことは、まだ記憶に新しいところで

なかでも、大きな衝撃だったのは、倒れてきたブロックベいの下敷きになって命を落された方が、十三人もいたことです。

ブロックベいの四割近くが、倒れたか、倒壊寸前となったのです。

地震直後の調査では、

## 地震！ そのときあなたは

「倒れたブロックベいは、鉄筋が入っていないか、入っていても基礎の部分にしっかりとつながっていないものが大部分です。それにブロックと鉄筋を接着させる詰めモルタルが効いていない——これでは、鉄筋を入れてあっても、倒れを防ぐ効果はありません。また、倒れたものの中には、基礎

コンクリートがないもの、控え壁（ブロックベいの背面につける補強用の壁）のないのや、あっても鉄筋でへい本体とつないでいないものが多かったようです。」

とはいえ、建築基準通り、基礎、

鉄筋、控え壁がしっかりしていれば、そう倒れるものではありません。

ところで、お宅のブロックベいは大丈夫ですか。この機会に一度点検してみて、ちよつとでも不安を感じたら、建築士や業者に相談して、補強策を講じるのがよいでしょう。

### マグニチュードと震度——その違い

「マグニチュード」は地震そのものの大きさをいい、「震度」はある場所での地震による揺れの強さを表します。

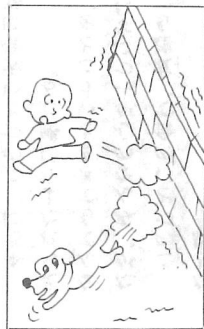
この「大きさ」と「強さ」は電球のワット数と明るさの関係に似ています。

広い部屋に一個の電球がついているとします。部屋の明るさは、当然のことながら、電球に近い所ほど明るく、遠くにいくにつれて暗くなります。

ところで、この電球をもつワット数の大きい電球に替えると同じです。そうすると、部屋全体が明るさを増し、いままで暗かった所も、明るくなります。

このワット数がマグニチュード

に相当し、部屋の場所によって違う明るさが震度というわけです。このように、マグニチュードとは「震源から放出されるエネルギーの大きさを表す尺度」なのに対し、震度は「地震を感じる場所の揺れの強さを示す尺度」なのです。



地震発生！

いざというとき、どのように行動すればよいか。

次の十か条を参考に。

- ①丈夫な家具などに身を寄せる。グラツときたら、机やベッドなど丈夫な家具に身を寄せて、しばらく様子を見ましよう。
- ②すばやく火の始末を

## 地震！ 正しい知識で的確な判断を

### 地震の心得10か条

- 地震で恐ろしいのは、地震による直接の被害よりも、その後の火災です。すぐ火の始末を。
- ③あわてて外に飛び出すなどんなに大きな地震でも、
- ④火が出たら、まず消火
- ⑤避難は徒歩で荷物は最少限
- ⑥へいざわ、川べりなどには近寄らない
- ⑦山津波・がけ崩れに注意
- ⑧海岸では津波、低地では浸水に注意
- ⑨余震を恐れずデマに注意

大揺れは一分間ていど。あわてて外に飛び出すと、屋根がわらや看板、ガラスの破片などの落下物で思わぬケガをします。まわりの状態をよく見ながら、落ちついて行動しましょう。

⑩秩序を守り、衛生に注意

自分だけよければというような身勝手な行動はとらず、秩序を守りたいもの。また伝染病発生の恐れがありますので、飲み水や食べ物には十分注意を。

備えておこう  
これだけは……

備えあれば憂いなしノ平穩無事のときには、困った状態を想像するのむずかしいのが人情です。しかし、いざというときのことを考えて、常日ごろから用意をしておくのがチエある生活ともいえます。

万一に、次の物を備えておこう。

- 一、水 水を確保する容器など
- 二、食糧 乾パン、インスタントラーメン、カンズメ等
- 三、貴重品、現金、通帳、印鑑などをひとまとめにしておく。
- 四、衣類、下着、毛布など、かんたんなもの
- 五、医療品、軟こう、消毒薬、ほうたいなど
- 六、ラジオ、トランジスタラジオ
- 七、その他 懐中電灯、タオル、チリ紙、マッチ、ナイフ、筆記用具など。